資料1

平成２７年度　佐賀県立武雄高等学校　学校評価計画

1　学校教育目標

「高志博学」　高い志と未来を切り拓く力を持ち、地域や国際社会の発展に貢献できる、人間性豊かな人材を育成する。

2　学校経営ビジョン

創立１０７年の歴史と伝統のもと、校是：「質実剛健」「報恩感謝」を基調に、人間性豊かな生徒を育成する。

①中高一貫教育の推進、充実・発展に努める。

②生徒の進路第一志望の実現のため、自ら学び考える態度を育み、学習への意欲向上、習慣化を図り、３年間を見通した教育実践に努める。

③教育活動全体をとおして、自他の存在を尊重することを基本とした指導を行い、安全・安心の学校環境づくりに努める。

④開かれた学校、信頼される学校づくりに努める。

3　本年度の重点目標

①武雄青陵中学校との連携・交流を充実させ、生徒一人ひとりの能力・個性を伸ばす中高一貫教育の推進に取り組む。
②進路第一志望の実現のため、全ての教科・領域において基礎・基本を重視するとともに、コミュニケーション力の育成に取り組む。
③グローバル教育の推進に取り組む。
④ＩＣＴ利活用教育を推進し、効果的な授業実践に取り組む。
⑤全ての教育活動において、自己の命・存在がかけがえのないものであるという理解を深めさせるとともに、社会性・マナー等の習得をとおして、相手を思いやることのできる心を醸成し、「いじめ等の発生ゼロ」の達成に取り組む。
⑥学校情報発信を推進するとともに、家庭・地域との連携を図り、開かれた、信頼される学校づくりに取り組む。
⑦教育公務員としての自覚と責任を踏まえ、生徒・保護者・地域社会からより高い信頼を得るように日頃の教育活動に取り組む。

4　前年度の成果と課題

①モラル・マナーの習得やいじめ防止、ボランティア活動、校外活動等の実践について、全般的には成果を上げているが、今後はＩＴ機器によるいじめ事案の増加が懸念され、情報モラル教育の充実がさらに必要となる。また、校外活動体験発表会における報告等に触発されて、年々ボランティア活動に参加する生徒や留学・海外との交流事業等に参加する生徒も増えている。グローバル教育の更なる充実を図り、さらにその輪を広げていきたい。
②上位層から下位層に至るまで、幅広い生徒の学力を伸ばすことができている。ただ、依然として下位層が厚く、中位層から下位層への指導には、さらに工夫が必要である。また、教職員の資質向上や進路指導等については、多くの教員が各種研修会に積極的に参加し、新課程の授業研究にも熱心に取り組んでいる。よりよい授業のあり方を目指して、ＩＣＴ機器（電子黒板・学習用ＰＣ）の利活用にも積極的な教員が多い。今後は、生徒の習熟度に応じた指導法の改善や工夫を期待したい。
③中高一貫教育３期生として、国公立大学合格者123名、うち難関大10名・医学科3名の合格となった。目標には届かず、全体としても一昨年度を越える合格実績をあげることができなかった。昨年度の反省を活かし、適切な進路資料の紹介・利用しやすい進路資料室・進路の広報誌の発信などを行えるようにする。進路講演会についても目的を明確にして、多様な生徒が満足できる指導の充実を図りたい。今後は全体の底上げと意識向上に励み、生徒個々人への指導の充実を図る必要がある。
④昨年度は、武雄高校だより・図書館だより・保健だよりなどの広報誌を頻繁にホームページにアップし、更新することができた。また、SEI-Netを利用したホームページも活用ができている。一方、ＰＴＡ総会の出席率は57.3%で、目標(60%)に少し届かなかった。何らかの方策を検討し、保護者の出席率の向上を目指したい。
⑤計画どおり中高授業研究会を開催した。また、国数英３教科で６年間を見通した教育内容について検討を深めた。部活動の連携のための新たな取り決めも行った。中高の教育課程をより有機的に接続させ、学校行事・部活動での連携をさらに深めたい。
⑥実証研究校として校内のハードウェア環境の調整に力を入れ、その成果は他校の環境整備にも還元できた。電子黒板・学習用ＰＣの両方について、学力向上のため、より効果的な活用方法を追究したい。

5　総括表

①武雄青陵中学校との連携・交流を充実させ、生徒一人ひとりの能力・個性を伸ばす中高一貫教育の推進に取り組む。

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策
特定課題	○中高一貫	併設中学校との連携を進める	・中高教師間の連携を深め、教育力を高める。 ・中高生徒間の交流を深め、一体感を持たせる。	・教科別に中高で互いの授業を参観し合い、授業研究会を実施する。 ・中高生徒の各種行事・部活動・校外活動での交流機会を設ける。

②進路第一志望の実現のため、全ての教科・領域において基礎・基本を重視するとともに、コミュニケーション力の育成に取り組む。

領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策
特定課題	○進路指導	中高一貫４期生としての自覚と進路第一希望の達成	・一人ひとりの生徒が適切な進路選択ができ、その進路実現のための支援を行う。 ・３年国公立大学合格者150名以上、うち難関大学合格者30名以上、国立大学医学科複数名。	・１年次より教科担当者会議を計画的に行い、３年次の進路検討委員会へと繋げ、３年間を見通した指導を行う。 ・進路講演会、職員研修会等を行い、生徒の意識向上および職員の授業力向上を図る。 ・文理分け、コース分けのための情報提供を行い、指導・面談の充実を図る。 ・難関大学希望者への個別指導を、早い時期から実施する。 ・短大・専門学校・就職希望者への個別指導を充実させる。
教育活動	●学力向上	教職員の指導力向上	・基礎的レベルから応用・発展レベルまで対応できる指導力を身につける。	・大学入試問題研究会等の実施によって、より実践的な知識と技能を身につけ、日常の授業への応用を図ることにより、授業内容の改善に取り組む。
		生徒の実力養成	・全国模試総合偏差値60以上を各学年120名以上にする。	・「学習と生活の記録」の活用 ・学習時間調査、教科担当者会議の実施。 ・職員研修の充実による教員の授業力向上。 ・模擬試験を通じて、新たな目標の設置と十分な見直し。
		「探究Ⅱ」の工夫と校外体験活動の奨励	・進路達成に資する各学年ごとの「探究Ⅱ」を計画・実行する。 ・年間50件以上の校外活動を紹介・募集し、のべ300人以上の活動体験者を出す。	・探究Ⅱ委員会または企画研修部会を毎週行い、各学年の探究Ⅱにおける活動内容を検討し、必要な修正を行う。探究活動（協働学習、ディベート、小論文指導等）を充実させ、年間の実施回数を増やす。 ・年間計画を年度当初に示し、以後各学期に募集中の校外活動の案内を適切に行う。また、活動への参加目的が明確になるように参加報告書を書かせ、事前事後指導を一人ひとりに対して行う。校外活動体験発表の場及び文書による報告を合わせて年に3回以上設け、経験を共有させる。

③グローバル教育の推進に取り組む。

領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策
教育活動	○更なるグローバル教育の充実	グローバルな視野に立ち、世界で活躍できる人材の育成を目指した教育活動の実践	・生徒のグローバルな視野を広げるような授業や教育活動を実践する。 ・社会課題に対する関心を喚起し、コミュニケーション力や問題解決力を育む教育を実践する。	・今年度新設したグローバル教育推進室を中心にした会議を通して、本校独自のグローバル人材像やグローバル教育について職員のコンセンサスを図り、それぞれの教員がグローバルな視野に立った授業を心がける。 ・県主催の「世界とつながる青少年交流推進事業」や民間企業の留学などへの積極的な参加を促すとともに、「探究Ⅱ」や日頃の授業を通して自分で問題解決を図る姿勢を身につけさせる。

④先進的ICT利活用教育を推進し、効果的な授業実践に取り組む。

領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策
教育活動	●教育の質の向上に向けたＩＣＴ利活用教育の実施	ＩＣＴ利活用教育に対する生徒の満足度を高める（肯定的評価90%以上）。	・電子黒板や学習用ＰＣを全教科で活用し、効果的な授業実践を行う。	・電子黒板や学習用ＰＣの授業における活用状況を調査する。 ・ＩＣＴサポーターの支援を有効に活用しつつ、職員対象の研修を充実させる。
学校運営	○教育情報支援システム（ＳＥＩネット）と学習用ＰＣ導入への対応	教育情報支援システム（ＳＥＩネット）と学習用ＰＣの効果的な活用方法を工夫する。	・教務部やＩＣＴ利活用教育推進部が連携してＳＥＩ－Ｎｅｔの効果的な活用法を確立する。	・県教育情報課やＳＥＩ－Ｎｅｔヘルプデスクとの連絡を密にし、業務の実態に合わせた運用方法を検討し、実施する。 ・デジタル教材開発業者と連携を図りながら、職員対象の研修を実施する。

⑤全ての教育活動において、自己の命・存在がかけがえのないものであるという理解を深めさせるとともに、社会性・マナー等の習得をとおして、相手を思いやることのできる心を醸成し、「いじめ等の発生ゼロ」の達成に取り組む。

領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策
教育活動	○生徒指導	規範意識の向上	・規則の遵守、防犯安全に対する意識を高める。 ・生徒指導措置および交通事故件数を０にする。	・ホームルームや集会等を利用して道徳やマナー・交通安全・情報モラル・人権意識等についての啓蒙を行う。 ・テキストやプリント・ポスター等により意識づけを行う。
		部活動の活性化	・部活動を通して、体力・忍耐力・協調性を養い、連帯感を身につける	・他の校務分掌や生徒会等と連携しながら、生徒の能力・適正、興味・関心等に応じた活動を行う。また、家庭や地域社会のの教育力や支援をうけながら積極的に展開していく。
教育活動	●心の教育	思いやりの心の育成	・ホームルーム活動や校外活動を通して、他者への思いやりの心を育てる。	・ホームルーム活動の時間に具体的なテーマを設定して考えさせる。 ・校内外におけるボランティア活動やイベント等の個々の活動の意義を明確にし、また関連するさまざまな情報を提供して、生徒の参加意欲を引き出す。
	●いじめ問題への対応	いじめのない学校づくり	・いじめの件数０を目指す。	・学校行事や部活動において生徒自身が集団との一体感を持てる取り組みを工夫することでいじめのおこらない雰囲気を醸成する。 ・アンケート調査等でいじめの早期発見に心掛け、いじめが認知された時は組織としていじめ問題にすばやく対応する。

⑥学校情報発信を推進するとともに、家庭・地域との連携を図り、開かれた、信頼される学校づくりに取り組む。

領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校運営方針	本年度の重点目標の周知	・重点目標を知っている保護者の割合を80%以上にする。	・PTA総会において、学校評価計画を示し、本年度の重点目標について十分な説明を加えることで周知を図る。また、学年保護者会・学年通信・広報紙及び学校のホームページを通して、随時周知を図る。
学校運営	○開かれた学校づくり	ＰＴＡ総会や学年保護者会の充実	・ＰＴＡ総会への保護者の出席率を６０％以上にする。	・ＰＴＡ総会の案内を一次・二次に分け、早めに案内する。 ・ホームページを利用して事前の広報周知を徹底する。
		中学生体験入学の充実	・体験入学の出席者数を募集定員の１８０％以上にする。	・早めに計画を立て、中学校に案内を出す。 ・ホームページを利用して事前の広報周知を徹底する。 ・内容を工夫し、中学生の興味関心を高める。
		情報発信の推進	・広報誌「武雄高校だより」を年１２回以上発行する。	・近隣の中学３年生全員の他、教育事務所や教育委員会にも配付する。 ・ホームページを利用して広報を徹底する。 ・在校生だけでなく中学生の興味も引くよう、内容を工夫する。
			・ホームページの更新を頻繁に行う。 ・スクールNewsの活用をする。	・生徒の活動状況だけでなく、保護者向けの文書などもアップする。 ・緊急情報等はWeb配信・メール配信も活用する。

⑦教育公務員としての自覚と責任を踏まえ、生徒・保護者・地域社会からより高い信頼を得るように日頃の教育活動に取り組む。

領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質向上	学問への興味を喚起させ、学力をつける授業の実践	・教科の専門性を高め、奥行きのある授業の実践に努める。 ・指導方法の改善に取り組み、わかりやすい授業の実践に努める。	・県主催の「大学受験指導力向上研修会」や「民間教育機関（予備校）への教員派遣事業」などへの積極的な参加を促し、個々の教師の指導力向上を図る。 ・各教科において、電子黒板や学習用ＰＣを効果的に活用することで生徒の興味関心をひく授業の工夫を図る。 ・研究授業の実施や参観の機会を増やし、指導方法の改善に役立てる。 ・生徒による授業評価の結果をそれぞれの授業改善に役立てる。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体つくり	望ましい生活習慣の形成	・校内環境美化に努める。 ・健康診断を有効に活用し、健康な体つくりに努める。	・学校全体でゴミゼロ運動に取り組む。 ・健康診断後の治療勧告書や、保健だよりを通じて、健康な体づくりを目指す啓蒙活動を行う。
教育活動	○図書館教育	読書の推進	・生徒の読書量と質を向上させる。	・朝の読書とＬＨＲでの一斉読書を図書館利用につなげる。 ・「図書館だより」や掲示物を通し、新閲覧本、お薦めの本の紹介等の情報発信を積極的に行う。 ・生徒たちの教養や知識の水準を上げるような本の提供を行う。
教育活動	○保健教育	学校保健教育の推進	・保健室での応急措置件数を1，560件以下にする。	・内科的訴えに対応するため、相談時間を確保する。教育相談係を中心にスクールカウンセラーを活用する。 ・「保健だより」を通して、時機に応じた内容の記事を掲載し、啓蒙活動を行う。